

会員各位

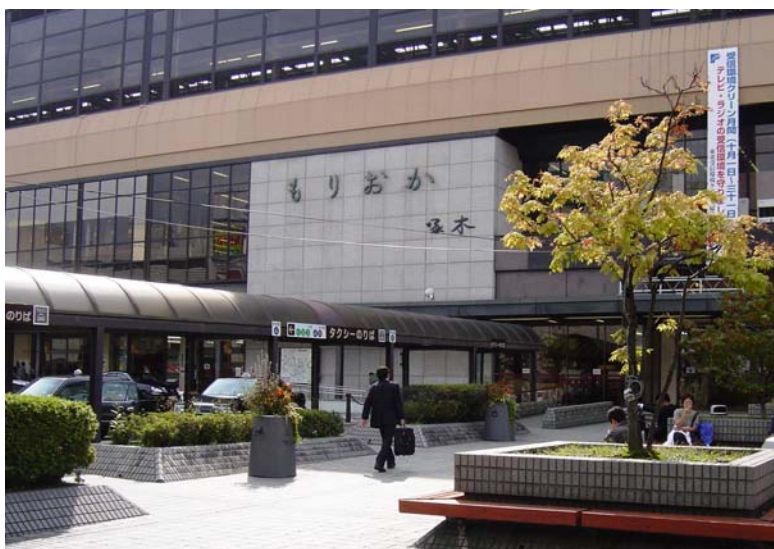
平成24年10月1日

協会だより238(10月号)

触媒資源化協会

<トピックス>

- 第215回月例会（一泊研修会）の開催
日 時：10月19日（金）～20日（土）
場 所：エコシステム秋田(株)工場関連（大館市花岡町）
集号場所と時間：盛岡駅西口11：15



- 一．協会よりのお知らせ
【実施済事項】 【予定事項】
- 二．経産省よりの連絡
- 三．第二十四回月例会を終えて
- 四．協会担当者の交代（紹介）
- 五．事務局より（十月度の予定）
- 六．【雑学】東アフリカのケニア国野生動物を訪ねて “

1. 協会よりのお知らせ

【実施済事項】

- ① **協会だよりー237（9月号）** をメール&郵便で送信（8／31）
- ② 第214回月例会（見学会）
日 時：9月3日（月）14：00～15：30
場 所：花王(株)すみだ事業場
出 席：32名
- ③ 第三回運営委員会
日 時：9月13日（木）15：30～17：00
場 所：堺化学工業(株)東京支店会議室
出 席：運営委員、第214回月例会幹事、第215回月例会幹事。計15名
- ④ 触媒工業協会と触媒資源化協会の幹部交流会
日 時：9月26日（水）17：30～20：00
場 所：北大路 八重洲茶寮

出席：両協会の会長・副会長・専務理事(事務局長)計8名

[予定事項]

① 第215回月例会(一泊研修会)の開催

日時：10月19日(金)～20日(土)

場所：エコシステム秋田(株)工場(大館市花岡町)

集号場所と時間：盛岡駅西口11:15

2. 経産省よりの連絡

- ・9/19 中国デモに係る被害状況調べ(経済産業省化学課)
- ・9/20 革新的エネルギー・環境戦略」の決定について

3. 第214回月例会を終えて

猛暑の夏が去り、残暑が続くものの暦の上では長月となりました。去る9月3日(月)、気候の良い中第214回月例会が開催されました。今回は花王(株)すみだ事業所への見学ツアーということで、我々一行、東京は亀戸へと足を運びました。駅からタクシーで走る約5分、花王(株)すみだ事業所に到着。都会の喧騒からやや離れており、スカイツリーを贅沢に展望できる、うらやましい立地にある工場です。

さて、早速一行は花王(株)すみだ事業所内にある、花王ミュージアムに案内されました。白い壁と床に囲まれた近未来を思わせる明るくて広いショールームの真ん中で、まずはスライド説明を受けました。花王グループは「世界の人々の豊かな生活文化の実現」を実現するため、「よきモノづくり」や「消費者を知る」ということを心がけているそうです。また、今回見学させて頂いたすみだ事業所東京工場は化粧品の製造や包装、ヘアケア製品の研究等ビューティーケアを専門で行っている唯一の工場・事業所であるとのこと。歴史がもっとも長く、敷地は東京ドームの1個分の大きさになるそうです。

ショールームでは花王の最新の製品や研究を紹介されており、CMや店頭でよく見る製品の傍らには商品の知識を深めるための機器が並んでいました。ご自身の肌質、髪質をチェックして楽しまれた方もいらっしゃるのではないのでしょうか。また、同じフロアで花王(株)が行っている研究についても紹介されており、低温定着性(高速印字)トナーの開発や植物由来のプラスチック樹脂の品質改良など、普段はあまり目にすることがありませんが、エコロジーの研究にも力を入れているということがわかりました。

化粧品工場では生産ラインを見学し、自動搬送ロボットが原料を窓口にて上から受渡し下から空箱を受け取るという無駄のない光景を見ることが出来ました。そこからファンデーションを容器に詰めて発送されるまでの工程は品質チェック以外すべてロボットによって行われているそうです。

研究所では、年間2,000人以上のモニターから得られる情報や一日600件も寄せられるというお客さまからの声をあらゆる角度から分析し、日本だけではなく世界のニーズに応えるモノづくりをここで研究されます。消費者からの問い合わせには「正確・迅速・親切」に対応しているという花王の対応システムは、驚くほど詳細な商品のデータを共有することで成り立っているのだということがわかりました。

日本の洗淨文化史、花王の歴史ゾーンは博物館の1フロアと言った感じで、一人一人に配られた音声解説器で「洗淨文化」の歴史と花王(株)の歴史を各自楽しみながら歩きました。古代文明で使われていた石鹸代わりの様なものから江戸のお化粧品道具まで展示品はどれも

とても興味深かったです。また、1890年に花王の石鹼が誕生してから今に至るまでの歴史は、社会情勢の変化と共に生まれる新しい生活のニーズというものが非常に分かりやすく解説されていて、花王㈱で現在も受け継がれている、消費者目線の原点を垣間見ることが出来ました。ちなみにスタッフさんによると KAO の語源は「顔を洗う」からきているのだとか。

以上で見学ツアーは終了し、出口では誰もが御存じの洗剤(アタック)と洗顔料(ビオレ)をお土産に頂きました。ご家庭で喜ばれたのではないのでしょうか。

今回の見学ツアーを通じて、花王㈱さんのグローバルな消費者のニーズをいち早く読み取り製品化するという意識の高さは、同じ日本の企業で働く者としてたくましいと感じると同時に、自分も見習うべき点ではないかと思われました。そして、私が使用している洗剤関係はほとんど花王さんの製品であるなあと実感した次第です。一日案内していただいた花王すみだ事業所のスタッフの方々には大変お世話になりました。

今回は初めて幹事という立場で運営を一部手伝わさせて頂きましたが、あまりお役に立てず、小林専務理事を始め、触媒資源化協会の皆さまのおかげで無事に成功させることができました。ありがとうございました。

記：株式会社光正 営業部 竹下裕子



4. 協会担当者の交代 (紹介)

- 日揮触媒化成株式会社殿

齋藤純夫さん(運営委員) ⇒ 大岡知幸さんへ

9月13日の第三回運営委員会で、齋藤さんより本日を持って協会担当及び運営委員も大岡さんへ交代と紹介いただきました。大岡さんは企画・調査部兼ファイン営業部第一営業グループの主査です。よろしくお願いいたします。

- 中外鋳業株式会社殿

形部泰孝さん(広報委員) ⇒ 西野正人さんへ

9月28日に協会事務所へ、挨拶に参られました。形部さんは東京工場へ移動されるため協会担当者及び広報委員の後任として西野正人さんの紹介を受けました。西野さんは貴金属部関東地区チーフです。よろしくお願いいたします。

5. 事務局より（10月度の予定）

曜日	月	火	水	木	金	土
1週	1	2	3	4	5	6
	×	○	×	×	○	×
2週	8	9	10	11	12	13
	体育の日	10/9～11(⑩奥の細道ツアー)			○	×
3週	15	16	17	18	19	20
	×	○	×	○	第215回月例会	
4週	22	23	24	25	26	27
	×	○	×	×	○	×
5週	29	30	31	11/1	11/2	11/3
	×	○	○	×	○	文化の日

事務局延べ出勤予定：11日（○；終日、△；半日、×は休日）。

6. 【雑学】東アフリカのケニア国野生動物を訪ねて

夏休みを利用し、アフリカのケニアに野生動物探索を試みた。実は動物観察の他に理由として、貧しい国の子供支援に里親に成って面倒をみる、ボランティア組織「ホスターチャイルド」で、2001年にケニアの女の子リリアン（当時13歳）の援助を始め、家族や環境の写真及び手紙（スワヒリ語と現地支援組織の英訳付）の交換をしたが、17歳になった時本制度では終わりとして又他国の子供支援をしている。彼女も今は25歳で立派な大人に成ったと思う。本人に会うことは無いが是非彼女の国ケニアを知りたいとも思った。兎に角、ケニアに興味があり大韓航空機を利用、成田から仁川乗換で飛行15時間、待ち時間を合わせると20時間で早朝東アフリカの玄関ロナイロビに着いた。赤道直下なるも海拔1800米で、軽井沢並の気温で快適である。

国土の70%が乾燥地帯で人口も少ない。但し、首都ナイロビは400万人の人口で大都会である。独立前は英国の植民地であり、公用語は英語で国語はスワヒリ語である。例えば、お早う、今日は、今晚は、全て“ジャンボ”で便利だ。主食はトウモロコシで耕作面積は広大であり、パンに加工して食べている。空港には在住9年の観光会社員坂本女史が出迎えてくれ、早速現地通貨シーリングと交換したが古い100\$紙幣は比率が悪く、

他では使えず不便した。現地人の日本語ガイド兼運転手のMr, アイザックの運転で市内へ、ジャカランタホテル（ジャカランタは南半球の桜と称し紫の美しい花、開花は10月）で朝食を済ませ、彼女と別れ我々4人は250キロ米先のアンボセリ国立公園へ向かう。市内を出ると間もなく凹凸の激しい悪路を走行、著しい振動で遂にトヨタの四輪駆動ランドクルーザーがパンクした。タイヤ交換の合間を利用し、



近くの土人マサイ族村を見学したが、料金\$25/人と高く、この部落には3家族110人住んでいた。

家は全て牛の糞で作られ、火を燃やす部屋と子供部屋があり、離れて大人の居間がある。主人は7~8人の妻を持ち、電気も、水道もなく暗くなると何もできず、幾らでも子供が生まれる。外周には枯れ枝を積んだ塀(?)が有り、夜間動物の進入を防いでいる。全員真っ黒で男性の背は高く精悍に見える。近くに学校小屋が有り、沢山の蠅の中で子供らは地区からの先生に学んでおり、寄付を要求された。土の上に木彫り品をならべ女たちが売っており、早速樹の根を持参しバイアグラより効くからと売り込みがあり、呑んでも無駄と追っ払う。マサイ族には40余りの部族があるらしいが、我々には区別出来ない。健康を祈ってくれたが効果の程は?ドライバー曰く、ケニア人の80%はキリスト教徒でイスラムは僅か6%、土着の宗教を信仰しているのが残りらしい。好事としてケニアで最近石油も出はじめ有望らしい。

当社も周辺国のザイール、ザンビヤからレアメタルの一部粗セレンを英国商社経由で大量に輸入したが鉄ドラムのシールに大量の銀ロウが使用され驚いた記憶がある。パンクもなおり、ガタガタ道を暫く走り公園ゲイトに入る。20分ほどで今夜の宿アンボセリロッジに着く。目の前の草原には象、縞馬の群れがおりロッジ周辺には沢山の猿が飛び回り、入口のドアをすぐ閉めないでとコヒーの砂糖を盗むし、ゴミ用ドラム缶を荒らし掃除の係に追われている。



夕方4時から初回のサファリドライブを2時間実施した。サバンナには前記の動物の他に、カバ、ヌー、トムソングゼル、ハゲコウ、ダチョウ、冠鶴、インパラ等野生動物の宝庫である。車の屋根からカメラで撮りまくった。隣国タンザニア国境にある標高6千米のキリマンジャロ山勇姿は晴れていても雲の中、残念。今夜ドライバーが明日見えるように祈祷することであきらめた。又、風がひどく耳や鼻が砂で塞が

る程で閉口したがガイド曰く、アンボセリとは砂埃という意味らしい。

象の群れ近くに行ったがアフリカ象は凶暴で危ない故至近距離は避けた。夜のロッジは快適、シャワーのみで電話も、テレビもなく、蚊帳の中の布団で、持参電池式香取器もセットして寝た。時差6時間の割には眠れた。何時もの習慣で旅に出る前、アフリカの動物に関する資料や本を読んできた。今回は動物写真家岩合光昭氏の夫人日出子さんが四歳の娘と一緒に三人、タンザニアで一年半を過ごした経験談、即ち、自然との戦い、教えられ、感動の著「アフリカ、ポレポレ(ス



ワヒリ語でゆっくりの意味)」を読んでいたので動物に関する知見が役立った。

兎に角面白い、ある時こぼれた砂糖の為2センチ程もある巨大蟻の大群に住まいを占領され、ガソリンをまいてやっと撃退したが暫く臭気がひどく人も住めなかったよし。今は乾期の為タンザニアのヌーや縞馬百万頭余りは水と草を求めて、国境ルアハ川を決死の思いで渡り、ケニアへ大移動しているが、溺死しや、鱔の餌食、又対岸に上れず壮絶な展開に成る。アフリカの動物見物は乾期がケニア、雨期はタンザニアと言われている。

翌朝のサファリドライブは無風で爽快だった。イボイノシシ、象、インパラ群の中を走り小高い丘に登り360度の地平線の眺めは満足であった。唯、ガイドの祈り不足で今日もキリマンジャロ山は雲の中であった。再度ナイロビへ戻り韓国人経営の日本料理店、てんぷら、煮物は美味であった。更に西へ向かい、朝から450キロ程移動して第二の国立公園ナクル湖に夕方到着する。ここは蚊が多くマラリヤが心配で悪猿の比ではない。ベッドには常設の蚊帳が有るもロッジは隙間だらけで持参蚊取り器を三個もセットする。ここも電話、テレビ、は無くシャワーのみだが携帯電話は使えロンドンオリンピックでなでしこジャパンが銀を知る。早朝湖外周のサファリドライブは風も入り体感温度は2〜3度と寒く、コートなど役立たず震え上がった。以前シベリヤでは一日で秋が終る、即ち目の



の前で紅葉が始まり直ちに落葉すると聞いたが、ケニアでは一日で春夏秋冬を経験出来る。衣類の選択を誤るとひどい目にあう。草原に水溜まりも多く一面グリーンの湖畔にはヌーと縞馬の大群、キリン、クロサイの家族がおり、ペリカン大集団が湖岸にひしめき、インパラ、トムソングゼル達が我がもの顔に飛び跳ねている。少し離れてフラミンゴの群れが居る。

本来ここはフラミンゴの集まる湖で有名で世界遺産に登録されているが、最近水量が多く水底の餌を食べにくいのでフラミンゴは他へ移動しており数が減っている。途中車の前をヒョウが横切り、茂みに隠れたのでシャッターチャンスを求め待っていたが、移動が瞬時の為撮影できず残念。

外周を走り終え内陸へと移動した・別の湖をモーターボートに乗りカバや珍しい沢山の鳥たちを観察した後、島に上陸し若いケニア娘の案内で、野生動物のそば迄歩き説明を聞いた。キリンに近寄り、流暢な英語で話され楽しかった。良く携帯が鳴りボーイフレンドかとの問いには笑顔、南国の美人としておく。

連日かなりの距離を走るが至る所で焼きトウモロコシを売っており、稀にドライバーが眠気覚ましに買っており、お裾分けして貰い試食したが意外と美味だった。勿論格安である、実はケニア1シーリングは日本円で1円と同じで価値判断しやすい。トイレ休憩所は必ず土産物屋で諸外国と同じだ。主は木彫り品で密度の高い黒檀は高価で、50%に値切り購入したが損をした感じだ。夕方ビクトリア湖に近くタンザニアのセレンゲティ公園に接する三番目のマサイマラ国立公園に着く。明日の熱気球でのバルーンサファリー料金を支払い、更に奥地のロッジにチェックインする。有名なサファリー基地の為観光客が多く、

ロッジも150戸位あり自分の小屋はフロントから10分も要した。今日も悪路を走行してきたが途中マサイ族部落が点在し、子供の牧童が親しげに手を振ってくれた。女性は桶を頭にのせ谷底から水を運び大変な労働だ。ここに二泊するので少し余裕が出来た。ガイドから一寸考えさせられる話をきいた。実はチーターが獲物インパラを仕留めて食べようとするも、サファリーカーが来てのフラッシュ光に驚き近くのブッシュ中に隠れてしまう。車が去り食事に戻るも後から後からの車で、食べられず、そこへ凶々しい禿鷹や、鷲が来て食べてしまう。ガイドは客を促して離れチーターの邪魔をしないように心掛ける。人間にとってはゲームサファリーでも、動物達には生きるか死ぬかの現実である。チーターやライオンは人間に見せる為にハンテングするのでは無く、生きる為である。残飯喰いのハイエナもおり、動物達に食事させる心構えが大事である、

早朝3時に起床ロッジを早めに出発、2時間余りを更なる悪路を走り気球基地に向かう。真っ暗で分かれ道も多いが流石プロのガイド無事に目的地に着く。周辺は真っ暗で満点の星空に南十字星がひと際輝いていた。海外に行く機会が多い割にサザンクロスは滅多に見られず、自分はニュージーランドから二度目である。安全の荷物検査を受け搭乗の準備に入る。原野でトイレ等は皆無で大勢の女性達は暗さを利用、天然トイレで用を足した。気球にバーナーで熱風を吹き込み飛行が近くなると、空が薄明るくなる。16人乗りの大型バルーンで上空に来た時美しい日の出を拝めた。明るくなると眼下のサバンナには動物群で一杯であり、中でもヌーの大群で真っ黒と成り、列を組み規則正しく移動を続け、更にキリン、縞馬も多く合間をハイエナの家族がうろついていた。小さい動物は見えず、ライオンはついに御目にかかれなかったが、一時間余り搭乗空からの野生動物観察は大満足であった。



周辺を見渡すと大小20個余りのバルーンがあり、人気サファリーである。持参の300mm望遠レンズは丁度最適の高さで利用できた。大草原の中にアフリカ特有の水平に広がるアカシアの森が点在し、近くに湖もあった。あっと言う間に一時間が過ぎ、願はくば半日位は乗っていたかった。

因みに、乗り賃は\$450/人と高価である。地上に降り草原の中でテーブルを囲んでの朝食である。真っ青の空の下、サバンナの真ん中での飲食は最高の気分だ、シャンペンが呑み放題で空腹に効いた。凸凹道を走り昼ロッジへ帰りついた。完全な二日酔いに非らず、一日酔いで昼食もとらず寝てしまった。夕方のサファリードライブも不参加でライオンに会わず終になる。同伴者曰く雄ライオン数頭に遭遇するも満腹で寝ており、絵を見るのと同じとのこと。夕方プール脇でハイエナの餌やり大会が有るも、当方興味なし、ハイエナがロッジと長契でも結んでいるのか？

翌朝は快調、世界一の悪路をナイロビに向かって出発する。このひどい道は車で壊れるのではなく雨期に多くの動物が通り、その爪跡に大雨が降り穴があいてしまう由。途中キリンが10頭程道端にあり、我々を見送ってくれた？性別、年齢を問うと、年を取るほど黒く成るらしく何とか見分けられる。

今は乾期で世界中から大勢の観光客が来るが、雨期は激減の由、走行にも倍の時間を要し、ひどい所は通うれ無いらしい。帰路大きな峠越えが有り、名所で大地溝帯（グレートリフトバレー）即ち地球の割れ目らしい。一見しただけでは溝と言う感じがしない。展望台で雄大な景色を眺めた後、お決まりのトゥモロコシ畑沿いを走り、ナイロビに戻る。キリン保護区が有りデッキに上り直接顆粒餌を食べさせたが、手首までなめられ気持ち悪し、沢山こぼれるが、下にはイボイノシシが掃除を受け持っている。昼食はシュラスコ料理（南米と同じ）、鰐の肉は鶏肉並で良い、ダチョウは硬い。スーパーマーケットに立ち寄ってみたが、全て安価に驚く、因みに米5キロで700円だ。しかしここでの賃金を思うに結構高価かも、土人、百姓、市民と所得格差が著しいらしく、スーパー利用は限られた階層だろう。高級住宅街を通うったが、2～3千坪の屋敷で車5～6台保有と聞いた。旅行者の女性曰く、昔はバス以外に車を見掛けなかったが今は給与明細でローンが組め、沢山のドライバーが車を持ち渋滞がひどく、マナーも悪いので困ると嘆く。驚いたことにオートバイは殆ど見掛けず、政府が輸入を禁じたらしい。市周辺にも工場団地が出来、これから発展すると思う。

首都ナイロビは都市化が進んでいるも問題も多い。エイズの感染率は依然として高く、マラリヤも死亡率の高い原因の一つである。又田舎では悪習の割礼が一部残っており、男性の包皮切除は病気を防ぐと、容認されるが、女性に酷い事をし、WHOから実施しないよう勧告が出されている。割礼は成人儀式にされたらしい。尚多くのガイドブックに東アフリカは盗人王国で極めて危険と記されているも、最近は少ないらしい。

今回の旅は人類発祥の地アフリカを訪ね自然の野性鳥獣を見たが、特に東アフリカでの沢山の熱帯動物に接し、深い感銘を受け遠い旅路の苦労も、かかったお金も忘れ、心から満足した。「念願叶ってアフリカに行ってきました」と眼を輝かせて話せる。帰国後岩合日出子さんの「アフリカ、ポレポレ」を再読実感が湧いた。因みに当時4歳の薫ちゃんも30歳を越している。出来ればタンザニアも訪ねてみたい。

以上

鶴岡 武（アジア物性材料(株) 取締役会長） 記

【番外編】



© Takashi Matsuda

昨年は東日本大震災の影響で日本中が自粛自粛の年でしたが、昨年中止していた浅草サンバカーニバルも8月25日に再開されました。尖閣諸島、竹島と騒がしい今日この頃ですが今年こそ明るい年を期待したいと思います。

【文責・専務理事】